松本市広報R6-20
●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

公民館報 まつもと

発行
2024
9/30

シリーズ　受け継ぎ伝える松本のたから 69

木造校舎と花火のコラボ

すすき川花火大会の彩りが
旧制松本高等学校の校舎に映える

（撮影 2024.8.9　あがたの森文化会館）

より良い公民館報を届けたい！

「令和6年度長野県公民館報関係者研修会」27年ぶりに松本で開催

6月22日、松本市松南地区公民館において、長野県内の公民館報の関係者が一堂に集まり開催されました。

開会式に引き続き「地域紙の役割と取材方法」をテーマに、市民タイムスの花岡明生特別編集委員の講演がありました。地域紙は公民館報と発行するエリアもほぼ同じで、毎日発行されるたくさんの情報は、公民館報にとっても大事な存在です。

花岡さんは「地域紙の役割は地域に必要とされるニュースを地域に届けること。それは5年、10年、20年と続くうちに地域の記録となる。公民館報もその点は同様だ」と述べられました。

4つの分科会

第1分科会のテーマ**「紙面」編集の基本のき**「次が楽しみになる館報を目指す学びになった」と感想がありました。

第2分科会のテーマ**「若年層に向けた効果的な情報発信」**「情報発信は、WEBやSNSなどのさまざまな媒体を使う必要性がある」と若者を意識した意見を聞くことができました。

第3分科会のテーマ**「題材選びについて」**山形村公民館報の紙面作りを聞き、自らの紙面作りの課題や問題点を出し合い、笑顔で盛り上がりました。

第4分科会のテーマ**「掲載したくなる写真のポイント」**記者になり撮影を体験しました。参加した公民館主事は「なるほど、こんなテクニックがあるのか」と紙面に合わせた写真術を学びました。

公民館報に係わる仲間が集まり、さまざまな課題や対策と出会え、貴重な学びの機会になりました。

自分のかかえる課題をどうしたい？

わがまち自慢　夏祭り縁日　中央地区

青山様・ぼんぼん・縁日・花火を満喫！

2年目の開催となった中央地区の夏祭り縁日。希望者を募り、8月8日に毎年開催します。市街地では、子どもが少なくなり、青山様・ぼんぼんを伝える機会が減っています。

連合会長の栗田さんは、「少子化で町会単位では開催が難しい。希望される中央地区の方、ゆかりのある方の参加も」と、子どもの祭り継承への取り組みを話してくれました。

夏祭り縁日の全貌…今年の様子はこちらから

青山様・ぼんぼん知りたいかたに

視点

⑱松本大学 新村からつなげる ひまわりの輪

愛されるひまわり畑

松本大学の正門横にはひまわり畑があります。０・６ヘクタールの面積に毎年約13万本のひまわりが咲き乱れます。２００６年より始まったひまわり畑の取り組みは、ＪＡ松本ハイランド青年部の協力のもと進められています。このひまわり畑には学生や近隣住民だけでなく、県外からの観光客も訪れています。結婚式の前撮りが行われたこともあり、地域を盛り上げる役割を担っています。

『大学は美味しい!!』フェアの様子。ポップやパッケージも手作りです。

学生の拠点

ひまわり畑は学生主体の幅広い活動の拠点にもなってきました。新村地区の保育園児が描いたひまわりの絵を展示する『子どもひまわり美術展』や、新宿高島屋で開催された『大学は美味しい!!』フェアでひまわりの種を使用したクッキーの販売などの活動が行われました。しかしコロナ禍でひまわりを咲かせる活動が中断された影響で、現在、学生主体の活動は行われていません。地域と学生がつながるサイクルが途切れてしまっている状態です。

上高地線の列車がひまわり畑の上を走ります。

次世代へ種をまく

今回お話を伺った松本大学総務課の臼井健司さんはひまわり畑の活動について、「継続は力なり」と話します。ひまわりを継続して咲かせることで、再び学生が参画する活動のきっかけになることを願います。そして学生と地域が「つながる」きっかけとなり、学生の学びに「つながる」、さらに未来へ「つながる」継続的な活動を行うことが理想です。

コロナ禍を乗り越え、再び花を咲かせた松本大学のひまわり畑。これまでに咲かせた多くのひまわりは、たくさんの学生の活動を支えてきました。新たな学生の主体的な活動によってうまれる「次の種」はどのようなものになるのか、注目です。

ひまわりの動画はこちら！

写真でつづる

まつもと今昔⑥⑤

～路線バスも新旧交代に～

（撮影：1996.9）

赤と青のコントラストが美しい松電カラーのバス。
山麓線を、内田経由で塩尻に向かう。牛伏寺口のバス停には、いくつもの看板や7基の石仏群が並んでいる。

（撮影：2024.8.22）

夕立の中を走るアルピコカラーのバス。現在は一日２本の運行で、塩尻境の内田倉村までしか行かない。バスが大型化されたためか、道路沿いにある建物の屋根は隠れて見えない。周辺の看板は撤去されてスッキリした景観になっている。

おこひる

年１回の健康診断で人間ドックを受診するが、若い時と違い年々検査値がグレーゾーンに突入して来ている。よく言われるように運動不足の解消と思いついて、ウォーキングを５年前から始めることにした▼場所は信州スカイパークに足を延ばすことにした。コースが整備され、四季それぞれの花や木で、散歩やジョギングをする人たちが楽しめる。そして、気兼ねなくマイペースで歩くことが出来るからだ。一周すると約10㎞となるが、私はその半分位を歩く▼周辺ではマレットゴルフや野外スポーツが盛んで、犬と一緒の散歩や自転車など、幼児から年配の方まで多くの方が目的をもって楽しんでいる。園内にある空港に離発着する、カラフルなジェット機を見て写真を撮るのも楽しみの一つだ▼運動靴もすでに5足履きつぶした。現在の検査値は急に改善は見られないが悪化傾向でもない。それが励みとなって、今日も歩き続けている。

再発見!!

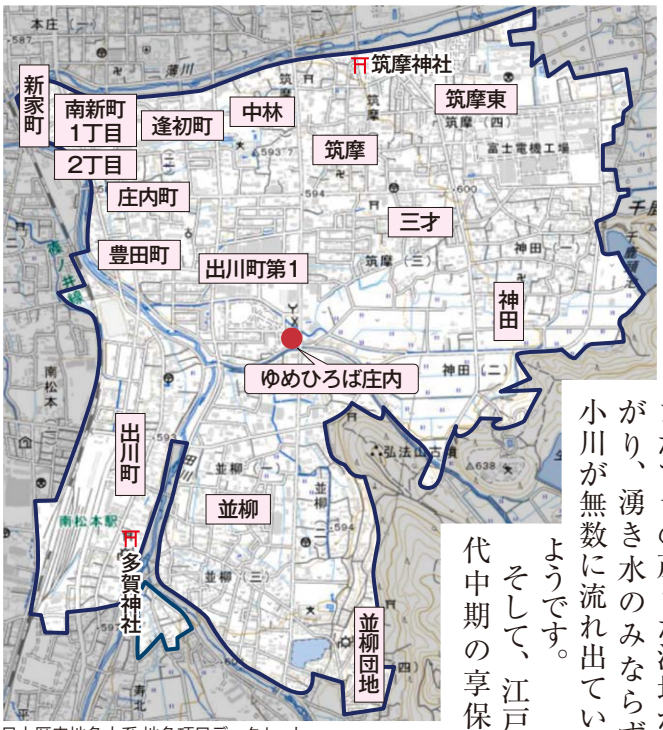
まつもと地名がたり ⑦

平安時代の荘園が地名の起こり　庄内地区

薄川から南側をながめると筑摩神社、東南に千鹿頭山・弘法山を望み、田川を越え、南松本駅までの広大な平坦地が広がります。

朝廷の荘園「捧の庄」

地名の由来は古く、平安時代初期、鳥羽天皇の皇女の領地「捧の庄」が起源のようです。荘園自体は鎌倉時代に衰え廃止されました。



日本歴史地名大系 地名項目データセット
(https://geoshape.ex.nii.ac.jp/nrct/) を加工

松本城主 石川数正の時代に

庄内という地名は、当時の太閤検地の際、「捧の庄」の中央にあたる地域が**庄の内**と言われていたことから、**庄内村**と名付けられたようです。

現在の庄内地区は薄川の南側ですが、江戸時代の庄内村は女鳥羽川南側から薄川下流地域に広がりました。

田川の西側まで湿田や畑、またアシの茂った沼地が広がり、湧き水のみならず、小川が無数に流れ出ていたようです。

そして、江戸時代中期の享保10（1725）年には、庄内村は松本城周辺の他の14カ村とともに、松本藩筑摩郡**庄内組**に属していました。

明治～大正～昭和を経て

明治8（1875）年、庄内・埋橋・筑摩・中林・三才・小島・征矢野・鎌田の8村が合併し、筑摩村となりました。

大正3（1914）年、区長制化の際、南新町と命名された町の3丁目になり、昭和2（1927）年、**庄内町**に再変更しました。昭和23年、旧市の地区分けが行われ、**庄内地区**が発足しました。

弘法山から庄内地区北側の眺め：田川～筑摩神社

松本平の野鳥たち

ニュウナイスズメ（2003年10月松本市波田　写真提供:信州野鳥の会）

日本にいるスズメは２種類。身近なスズメよりほんの少し小型。民家近くに生息するスズメとは対照的に、林や森などを好む。スズメのような頬の黒斑は無く、オスでは頭部と背中は鮮やかな栗色をしている。チュピッと聞こえるスズメより濁り気味の声を出す。松本平にも生息しているが出会う機会は少ない。

まつもと散歩

季節が移ろうとも
いつの日も変わらずに
子らの笑顔と夢の先

（撮影：2024.8.16 松本城公園）